

科目名	解剖生理学 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	小山、河西、押領司、梶原、河野、塩澤	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・前期	授業形式	講義
単位数	2単位	時間数	60時間

<到達目標>

1. 看護の対象を身体的側面からとらえるための基礎となる人体の機能、構造を学ぶ。
2. 人間の生命と生活を支える人体の構造と機能が様々な意味や広がり、関連があることを学ぶ。
3. 各器官系統の構造と機能について学ぶ。

<授業内容>

栄養の消化と吸収(第2章)、体液の調整と尿の生成(第5章)、身体の支持と運動(第7章) 26H 講師:小山勝弘

第1回～第5回 栄養の消化と吸収(第2章) 10H

第6回～第9回 体液の調整と尿の生成(第5章) 8H

第10回～第13回 身体の支持と運動(第7章) 8H

呼吸と血液の働き(第3章) 8H 講師:河西光子

第14回・第15回 呼吸器の構造(第3章A) 4H

第16回・第17回 呼吸(第3章B) 4H

呼吸と血液の働き(第3章)・身体機能の防御と適応(第9章) 8H 講師:押領司民

第18回～20回 血液(第3章C) 6H

第21回 生体の防御機構(第9章B) 2H

血液の循環とその調節(第4章) 講師:梶原奈津子

第22・第23回 血液の循環(第4章A～D) 4H

第24・第25回 血液循環の調整(第4章E～F) 4H

生殖・発生と老化のしくみ(第10章) 8H 講師:河野朝呼

第26回～第29回 男性生殖器・女性生殖器(第10章AB)、受精と胎児の発生・成長と老化(第10CD) 8H

身体機能の防御と適応(第9章) 2H 講師:塩澤詩穂

第30回 皮膚の構造と機能・代謝と運動・体温とその調整(第9章ACD)

<授業方法>

第1回～第13回は教書を用いてすすめる。第14回以降は講師作成のパワーポイントと教科書を用いてすすめる。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。

評価は中間試験と終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

系統別看護講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴

栄養の消化と吸収「看護 生体のしくみ 9集 腹膜の構造、腹膜の働き(Vol.49)～小腸での消化・吸収～(Vol.50)

ビリルビン代謝、クレアチニンの代謝(Vol.54)」

呼吸と血液の働き(呼吸)「看護 生体のしくみ 6集 ガスの拡散(Vol.31)～血ガス、呼吸音(Vol.33)」

循環器の構成「看護 生体のしくみ 3集 心臓の外観(Vol.13)～バイパスの循環(Vol.19)」

体液の調整と尿の生成「看護 生体のしくみ 6集 腎臓の構造(Vol.34)～排尿のしくみ(Vol.35)」

生殖・発生と老化のしくみ「看護 生体のしくみ 11集 性周期(Vol.61)～分娩、乳腺(Vol.63)」

<履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておく。

<学生に向けてのメッセージ>

後期には病理学で機能障害を学びます。本単元での学習はそのための基礎知識となりますので、十分な理解とあとで見直し、活用できるようにしましょう。

科目名	解剖生理学Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	小山、武田、新藤、鈴木	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・前期	授業形式	講義 筆記試験
単位数	2単位	時間数	60時間

<到達目標>

1. 看護の対象を身体的側面からとらえるための基礎となる人体の機能、構造を学ぶ。
2. 人間の生命と生活を支える人体の構造と機能が様々な意味と広がり、関連があることを学ぶ。
3. 各器官系統の構造と機能について学ぶ。
「生理学概論」「細胞」「内部機能の調節」「情報の受容と処理1」「情報の受容と処理2」

<授業内容>

生理学概論 22H 講師:小山勝弘
 第1回～第4回 バイタルサインの生理と病態 血圧・脈拍・呼吸・体温の生理 8H
 第5回 体液の調節と病態 6H
 第6回・第7回 栄養と排泄の調節 4H
 第8回・第9回 活動と休息の生理、および身体の変化 4H
 細胞 20H 講師:武田勝彦
 第1回・第2回 入門 動物の組織、神経細胞・受容器 4H 第3回・第4回 細胞の構造と機能1、2 4H
 第5回 有性生殖 生殖と遺伝 生殖細胞の形成 2H 第6回 メンデルの研究と遺伝法則 2H
 第7回 生物体を構成する物質 2H
 第8回・第9回 (2)たんぱく質 物質代謝と酵素 4H
 第10回 アミノ酸・たんぱく質の構造と特性 2H
 内部機能の調節 8H 講師:鈴木美緒
 第1回 自律神経による調節 内分泌系による調節 4H
 第2回 全身の内分泌線と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節と実際 4H
 情報の受容と処理1・2 10H 講師:新藤裕治
 第1回 情報の受容と処理1:神経系の構造と機能(神経組織・中枢神経系・末梢神経系) 8H
 第2回 情報の受容と処理2:耳鼻口腔の構造と機能(視覚・聴覚・味覚・臭覚など) 2H

<授業方法>

生理学概論:教科書を用いて講義形式ですすめる。細胞:講師の準備する資料及び教科書を用いて講義形式ですすめる。内部機能の調節、情報の受容と処理:講師作成のパワーポイント、教科書を用いて講義形式ですすめる。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

坂井建雄他,系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1,医学書院
 堺章,改訂 目で見えるからだのメカニズム,医学書院 / 北里大学大学病院看護部,New 臨床略語辞典,Gakken
 田中越郎他,系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進2病態生理学,医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

循環器の構成「看護 生体のしくみ 3集 心臓の外観(Vol.13)～バイパスの循環(Vol.19)」
 体液の調整と尿の生成「看護 生体のしくみ 6集 腎臓の構造(Vol.34)～排尿のしくみ(Vol.35)」

<履修上の注意点>

【週末課題】医学映像セレクトの視聴
 内部環境の調整「生体のしくみ 16集 ホルモンの構造と作用機序(Vol.93)～糖質コルチコイドの作用(Vol.96)」
 情報の受容と処理1、2「生体のしくみ 11集 中枢神経の発生(Vol.64)～間脳(視床下部)(Vol.66)」
 情報の受容と処理 第1回では、復習に重点を置き、講義において理解できなかった箇所をまとめることをお勧めします
 講義では「病気がみえる7脳・神経(メディックメディア)」の図・表を使用していることが多く、復習時に参考図書として用いると効果的な復習が可能となる。

<学生に向けてのメッセージ>

解剖生理を知ることは疾患の理解のために重要です。人間の体の神秘について一緒に学びましょう。
 第1回 情報の受容と処理1 では、用語が難しく覚えることも多いですが、看護をしていく上で基盤となる重要な科目であるため、自分が理解したか常に確認しながら学習することをお勧めします(新藤)

科目名	解剖生理学演習	必修/選択の別	必修
授業担当者	藤本未央、梶原奈津子、森澤朋子	評価方法	総合評価
履修年次	1年・後期	授業形式	講義 演習
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 対象に起きている事象を論理的に探求し、メカニズムがわかる。
2. 患者に起きている事象を正確に観察するための方法を学ぶことができる。
3. 観察した内容を的確に判断解釈することができる。

<授業内容>

第1回 演習のオリエンテーション 解剖生理学演習の方法や目標についての説明 関連図の描き方の説明
講師:藤本未央・梶原奈津子 2H

第2回・第3回 浮腫・脱水のフィジカルアセスメント 4H 講師:梶原奈津子

第4回・第5回 呼吸困難・のフィジカルアセスメント 4H 講師:森澤朋子

第6回 演習 1つの症状を取り上げ「事象に関連した病態」レポート作成 2H

第7回～第11回 演習 基礎看護学実習Ⅱで取り上げた事象ごとにグループを作り行う 10H
各グループに担当教員がいるため、相談しながら進める
その事象について解剖生理に戻りながら患者の場合を説明、その症状に合わせたフィジカルアセスメントの方法と看護を発表できるように演習を進める。
発表会に向けた資料作り、印刷、発表準備

第12回～第15回発表会 8H 講師:藤本未央
実習室でグループ毎に発表会を行い、学びを共有する
パワーポイントを用いて発表する。
発表の中に、事象を観察するための方法をデモンストレーション形式で取り入れる。

<授業方法>

第1回～第5回は、講師作成の資料、パワーポイントを用いて講義形式で進める。
第6回～第11回は、講師が提示した内容の演習を個人・グループで行う。
第12回～第15回は、グループごとの発表をするため、皆に解りやすく伝えるための方法を工夫して臨む。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席、演習の取り組みへの態度、提出物、発表会参加への態度をもって評価する。

<必携図書>

系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院
看護過程に沿った対症看護 病態整理と看護のポイント第4版, Gakken

<自己学習のポイント及び参考図書>

新訂 目で見るからだのメカニズム, 医学書院
フィジカルアセスメントガイドブック, 医学書院
系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進②病態生理学, 医学書院

<履修上の注意点>

演習時間が10時間と多いため、グループメンバーと意見交換を活発に行い、自己の考えを伝える努力をしてほしい。

<学生に向けてのメッセージ>

初めてひとりで受け持った患者に起きていた事象を論理的に探求し、看護を行う上で一番大切な観察とその判断の方法を学ぶことはとても重要です。患者に起きていることをしっかりと捉えることが、患者の立場に立った看護を行う上での必修となります。患者に起きていることをグループメンバーと共に楽しく学びましょう。

科目名	生化学	必修/選択の別	必修
授業担当者	長沼 孝文	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

生体を形作る成分や物質およびそれらの機能と化学的变化などの生命現象を学ぶ。

<授業内容>

- 第1回・第2回 「生物体抗生物質」 生化学とは 生物体とは 4H
- 第3回・第4回 「生体構成物質の働き」 無機 イオン アミノの酸 4H
- 第5回・第6回 「たんぱく質、酵素」 たんぱく質と酵素の働き 4H
- 第7回・第8回 「ビタミン、糖質」 ビタミンの働き、糖質とは 4H
- 第9回・第10回 「脂質」 脂質の種類、働き 4H
- 第11回・第12回 「物質代謝」 ATP生成、ATPの役割 4H
- 第13回・第14回 「エネルギー」 生体内エネルギー 4H
- 第15回 「遺伝」 遺伝のしくみ、遺伝病 2H

<授業方法>

講義はすべて教室で授業者の用意した資料に基づいて行います。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
評価は試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

特にありません。

<自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴 「生体のしくみ 9集 口腔・胃での消化 解毒機構 (Vol.50～54)」
三輪一智「系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能②」医学書院
脊山洋右編集「新体系看護学全書 人体の構造と機能 栄養生化学」メジカルフレンド社
三井和浩 編「ナーシング・グラフィカ(2) 人体の構造と機能」メディカ出版

<履修上の注意点>

板書が中心です。講師の話をよく聴き、メモを取るようにしましょう。

<学生に向けてのメッセージ>

生体のしくみを知る上で基礎知識となる重要な科目ですのでしっかり学びましょう。

科目名	病理学 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	畑 日出夫	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義 施設見学
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

- 1.解剖生理学、生化学の学習を基礎に、疾病の病態を化学的に捉えることができる。
- 2.疾病の病態が患者にどのような症状として現れてくるのか学ぶことができる。
 - ①病理学の定義 ②先天異常 ③代謝障害 ④循環障害 ⑤炎症と免疫 ⑥腫瘍

<授業内容>

- 第1回 「病理学とは」 1.治療における病理学の役割 2.看護における病理学の意義 2H
 第2回・第3回 「病気の原因」 内因・外因・医原病と公害病 4H
 第4回～第6回 「変化、物質沈着」 6H
 第7回 「物質沈着」 2H
 第8回・第9回 「全身性うっ血」 心不全・肺うっ血 4H
 第10回・第11回 「炎症と免疫、膠原病」 4H
 第12回・第13回 「癌・腫瘍」 1.腫瘍の定義・発生病理 2.悪性腫瘍の転移と進行度 3.腫瘍の診断と治療 4H
 第14回・第15回 「標本館見学」 4H

<授業方法>

講義はすべて教室で行います。標本館見学は山梨大学医学部附属病院に行きます。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
 評価は試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。
 標本館見学後、レポートを記載し提出する。

<必携図書>

大橋健一他「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

解剖生理学 I・II の授業を復習しながら、理解を深めていく。

<履修上の注意点>

復習および理解の浅かった事柄などを、参考書で調べて理解を深めること。

<学生に向けてのメッセージ>

将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが、ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。それぞれの病気についてなぜ？どうして？と疑問を持ち、原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をともに学んでいきましょう。

科目名	病理学Ⅱ-1	必修/選択の別	必修
授業担当者	森澤、塩沢、西山、加藤、齊藤、高橋	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

呼吸器疾患と消化器疾患の症状、病態生理、経過、検査、治療法について学ぶ。

<授業内容>

呼吸器疾患 10H 講師:森澤朋子

第1回 呼吸器の機能の構造と機能 2H

第2回・第3回 検査と治療処置 気管支内視鏡検査、生検、呼吸機能検査 酸素療法 4H

第4回・第5回 疾患の理解(病態、診断、治療の特徴を含む) インフルエンザ、肺炎、間質性肺炎、気管支喘息
慢性閉塞性肺疾患、肺塞栓症、呼吸不全など 4H

消化管疾患

第6回・第7回 消化器総論 消化器の構造と機能、症状とその病態生理 検査と治療など 4H 講師:塩沢敦士

第8回・第9回 消化管各論 食道・胃・十二指腸などの疾患 大腸の疾患 4H 講師:西山敦士

第10回・第11回 肝臓の疾患 4H 講師:加藤昌子

第12回・第13回 胆のう、胆管の疾患 4H 講師:齊藤悠一

第14回・第15回 膵臓の疾患 4H 講師:高橋大二郎

<授業方法>

講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。

<評価方法の方法>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。

評価は試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

標本館見学後、レポートを記載し提出する。

<必携図書>

坂井建雄他「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①」医学書院

堺章「改訂 目で見えるからだのメカニズム」医学書院

浅野浩一郎「系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学②」医学書院

松田明子「系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴

呼吸器疾患「看護 生体のしくみ 6集 ガスの拡散(Vol.31)～血ガス、呼吸音(Vol.33)」

消化器疾患「看護 生体のしくみ 8集 胃の構造(Vol.43)～膵臓の内分泌(Vol.45)」

<履修上の注意点>

復習および理解の浅かった事柄などを、参考書で調べて理解を深めること。

<学生に向けてのメッセージ>

将来看護師として働くために多くの病気の知識が必要ですが、ただ知識の丸暗記では理解することは難しいです。

それぞれの病気についてなぜ?どうして?と疑問を持ち、原因や病気の成り立ちを追求していくことが大切です。

みなさんがこれから求められる「科学的に理解する」の根幹をともに学んでいきましょう。

科目名	病理学Ⅱ-2	必修/選択の別	必修
授業担当者	看護師、大森泉、押領司民	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

循環器疾患と血液疾患、および腎・泌尿器疾患の症状、病態生理、経過、検査、治療法について理解する。

<授業内容>

循環器疾患 講師:看護師

第1回 循環器の構造と機能 症状とその病態生理 2H

第2回 検査:心電図・心エコー・心臓カテーテル検査他、内科的治療:薬物療法・PCI・ペースメーカー 2H

第3回 虚血性心疾患 2H

第4回 心不全、血圧異常 2H

第5回 不整脈 2H

第6回 弁膜症 2H

第7回 心膜炎 心筋疾患 先天性心疾患 動脈系疾患 静脈系疾患 2H

腎・泌尿器疾患 講師:大森泉

第8回 腎臓の構造と機能 2H

第9回 腎臓の機能障害による症状 2H

第10回・第11回 腎不全、その他の腎疾患 4H

第12回 腎機能検査 2H

血液疾患 血液疾患(第4章) 講師:押領司民

第13回・第14回 血液の成分と機能、主な症状の病態生理 4H

第15回 疾患の理解 2H

<授業方法>

講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。

評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

吉田俊子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③循環器」医学書院

飯野京子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④血液・造血器」医学書院

大東貴志他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器」医学書院

坂井建雄他「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①」医学書院

堺章「改訂 目で見るからだのメカニズム」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

予習内容 ①腎臓の構造と機能 ②排泄のメカニズム

医学映像セレクトの視聴

血液疾患「医学 病気の基礎知識 病気の成因・病態と治療 introduction(05.貧血)～見て分かる薬の作用機序(抗凝固薬)」

腎・泌尿器疾患「看護 生体のしくみ 6集 腎臓の構造(Vol.30)～尿の化学的性状(2)(Vol.34)」

<履修上の注意点>

解剖生理学の復習をしっかりとしておくこと。授業範囲について、教科書を読み、分からない語句を調べておくこと。

<学生に向けてのメッセージ>

血液の病気は、難病指定の疾患や悪性腫瘍など、原因不明で長期間にわたり苦痛を伴う治療を要するものが含まれ、精神面や社会面にも大きな影響を及ぼします。患者の立場に立って、一緒に健康上の問題を考えましょう。:押領司

科目名	病理学Ⅱ-3	必修/選択の別	必修
授業担当者	内藤、三井、浅川、他医師	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間
<到達目標>			
腹部・胸部疾患の外科的治療、運動器疾患と治療、心臓・脈管系の外科的治療について学ぶ。			
<授業内容>			
外科的治療 講師:内藤恵一、他医師 第1回・第2回 第3章 消化管(食道の手術、胃・十二指腸の手術) 4H 第3回・第4回 第3章 消化管(小腸・大腸・腹膜・ヘルニアの手術) 4H 第5回・第6回 第3章 消化管(肝臓・胆嚢・膵臓の手術、腹腔鏡下での手術) 4H 第7回・第8回 第1章 胸部(肺の手術) 2H 胸部(乳房の手術) 2H 運動器疾患と外科的治療 講師:三井一義 第9回 看護を学ぶにあたって 2H 第10回 骨について 2H 第11回 症状とその病態生理 2H 第12回・第13回 疾患の理解 4H 心臓・脈管系疾患の外科的治療 講師:浅川英一 第14回 手術適応の心疾患(弁膜症) 2H 第15回 冠動脈疾患に対する手術について 2H			
<授業方法>			
「外科的治療」及び「心臓脈管系疾患の外科的治療」の講義はワーポイントを使用して行います。			
<評価方法の詳細>			
授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。			
<必携図書>			
外科的治療: 1.矢永勝彦他「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」医学書院 2.北島政樹他「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」医学書院 運動器疾患と外科的治療: 1. 識田弘美他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩運動器」医学書院 心臓・脈管系疾患の外科的治療: 1.吉田俊子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③循環器」医学書院			
<自己学習のポイント及び参考図書>			
医学映像セレクトの視聴 心臓・脈管系疾患の外科的治療 「看護 生体のしくみ 3集 心臓の外観(Vol.13)～バイパス術(Vol.18)」 「看護 実践!看護技術シリーズ Vol.1診療に係わる技術偏 検査時の看護1 心臓カテーテル検査の実際」 参考図書 堺章「改訂 目で見えるからだのメカニズム」医学書院 坂井建雄他「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①」医学書院 雄西智恵美他編集「成人看護学 周手術期看護論 第3版」HIROKAWA			
<履修上の注意点>			
運動器疾患と外科的治療では、上記必携図書を忘れずに持ってくること。			
<学生に向けてのメッセージ>			

科目名	病理学Ⅱ-4	必修/選択の別	必修
授業担当者	新村、滝瀬、森澤、鈴木	評価方法	筆記試験
履修年次	2年 前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

代謝疾患、脳神経疾患、アレルギー性疾患、感染症、膠原病の症状、病態生理、経過、検査、治療法について学ぶ。

<授業内容>

第1回・第2回 脳の解剖、運動神経 神経の通り方、伝わり方 4H 講師：新村浩透
 第3回 多発性神経炎からヘルペス脳炎 髄膜炎、てんかん 2H 講師：新村浩透
 第4回・第5回 脳神経疾患 認知症 脳血管疾患 4H 講師：滝瀬康洋
 第6回 神経疾患の診断、脱髄疾患、変性疾患 2H 講師：滝瀬康洋
 第7回 アレルギーのしくみ・免疫のしくみ、アレルギーによる疾患 2H 講師：森澤 朋子
 第8回 膠原病 自己免疫について・膠原病主要疾患の特徴 2H
 第10回 感染症① 感染症の一般 2H
 第11回 感染症2 主な感染症(エイズ・結核) 2H
 第12回 代謝の概要と機能 糖尿病の成因・症状 2H 講師：鈴木美緒
 第13回 糖尿病の分類 検査・診断 糖尿病の治療 糖尿病合併症 2H
 第14回・第15回 糖尿病の治療 薬物療法・食事療法・運動療法 4H

<授業方法>

教科書及び授業で配布する資料を使い、パワーポイントに沿って講義する。

<評価方法の詳細>

授業時間20時間以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

井手隆文他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,成人看護学⑦,脳・神経,医学書院
 黒江ゆり子 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,成人看護学⑥,内分泌・代謝,医学書院
 岩田健太郎他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,成人看護学⑩,アレルギー 膠原病 感染症,医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

堺章 改訂 目で見るからだのメカニズム,医学書院
 坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野,解剖生理学 人体の構造と機能①,医学書院
 医学映像セレクトの視聴
 代謝疾患「看護 生体のしくみ 8集 膵臓の内分泌(Vol.48)」
 脳神経疾患「看護 生体のしくみ 11集 中枢神経の発生(Vol.64)～間脳((Vol. 66)」

<履修上の注意点>

復習および理解の浅かった事柄などを、参考書で調べて理解を深める
 今までに学習した「解剖生理学」などの専門基礎分野に関する授業を復習して授業に臨む。

<学生に向けてのメッセージ>

慢性的な経過をたどり、長期にセルフケアを必要とする機能障害(内分泌・代謝機能障害、脳・神経、運動機能障害)をもつ患者の病態や治療による生活への影響を理解し、必要な看護援助を判断するためのアセスメント方法と、健康問題解決のための具体的看護支援について学習しましょう。

科目名	微生物学	必修/選択の別	必修
授業担当者	渡辺 浩二	評価方法	筆記試験
履修年次	1年 前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

微生物の生態を学び、ヒトとの関わりと病気の成り立ちを理解する事により、患者と看護師自身の安全や感染予防の必要性とその手技を身につける能力を養う。

<授業内容>

第1回 微生物学総論（病原微生物の概念） 2H
 第2回・第3回 細菌学総論（細菌の構造と機能・増殖・分類） 4H
 第4回 真菌学・原虫学総論（真菌・原虫の特徴） 2H
 第5回・第6回 ウイルス学総論（ウイルスの特徴と増殖形態） 4H
 第7回～第9回 感染論（感染のメカニズムと感染症の発症の要因） 6H
 第10回・第11回 免疫学（生体防御機構のしくみと液性免疫・細胞性免疫） 4H
 第12回・第13回 感染症の予防（滅菌 4H
 第14回 感染症の診断と治療（感染症の検査法・化学療法） 2H
 第15回 微生物学各論（細菌・ウイルス・真菌・原虫による疾患の種類） 2H

<授業方法>

全回、配布したプリントを基に板書による講義

<評価方法の方法>

授業時間2/3以上の出席を持って筆記試験の受験資格が得られる
 評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する

<必携図書>

南嶋洋一 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学,疾病の成り立ちと回復の促進④,医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

微生物学者を目指すわけではないので、臨床に関係のない知識の習得に時間を割くのは得策ではありません。
 他の教科とどう関連があるのかを考えながら、その教科の教科書を参照しながら復習してみると良いと思います。

<履修上の注意点>

板書とレジメで授業を行います。板書の写しとレジメの整理を行うこと、授業内容をよく聴きメモを取ることが大切です。

<学生に向けてのメッセージ>

教科書の内容は非常に難解であり、また全部が臨床に必要と言う訳でもありません。
 すべてを理解しようと思わず、何のためにどのような知識が必要かを考えながら気楽に学習して下さい。

科目名	薬理学	必修/選択の別	必修
授業担当者	白倉 洋朗	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・前期	授業形式	授業形式
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

- 健康回復を促進させる薬物療法を理解するために薬物の基礎的性状および、作用・適用・調剤に関する基本的な事柄を理解する。
- 健康回復を妨げないための薬物の安全と副作用に関して理解できる能力を養う。

<授業内容>

第1回	第1部	薬理学総論	第1章	薬理学を学ぶにあたって
第2回	第1部	薬理学総論	第2章A	薬力学
第3回	第1部	薬理学総論	第2章B	薬物動態学
第4回	第1部	薬理学総論	第2章C	薬物相互作用
第5回	第1部	薬理学総論	第2章D	薬効の個人差に影響する因子
第6回	第1部	薬理学総論	第2章E	有益性と危険性
第7回	第1部	薬理学総論	第2章F	薬と法律 薬剤情報
第8回	第2部	薬理学各論	第1章	抗感染症薬
第9回	第2部	薬理学各論	第2章	抗がん剤
第10回	第2部	薬理学各論	第3章	免疫治療薬
第11回	第2部	薬理学各論	第4章	抗アレルギー薬・抗炎症薬
第12回	第2部	薬理学各論	第5章	末梢での神経活動に作用する薬剤
第13回	第2部	薬理学各論	第6章	中枢神経系に作用する薬剤
第14回	第2部	薬理学各論	第7章	心臓・血管系に作用する薬剤
第15回	第2部	薬理学各論	第8章	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬剤
			第9章	物質代謝に作用する薬剤
				模擬問題の解説とまとめ

<授業方法>

講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

吉岡充弘他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

授業で使用したパワーポイントの資料と教科書の問題の見直しを行う。
実習等で扱った医薬品についての薬剤情報を、添付文書や医薬品集を使用して調べる。
参考図書:治療薬マニュアル(医学書院)、今日の治療薬(南江堂)、PMDAホームページ(添付文書検索:www.pmda.go.jp)

<履修上の注意点>

講義で配布する資料は一部空欄になっています。授業を聴きながら埋めていってください。

<学生に向けてのメッセージ>

医師は処方、薬剤師は調剤や監査を行いますが、最終的に投与するのは看護師の場合が多いです。
看護師は患者さんに安全安心な薬物療法を行うために重要な役割を担っています。
また、投与後の薬剤の効果や副作用を正確に評価することも看護師の重要なスキルです。

科目名	栄養学	必修/選択の別	必修
授業担当者	管理栄養士	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・後期	授業形式	講義形式
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 生命活動を保障するために不可欠な栄養素の種類と生体内での代謝に関する知識を基に、栄養摂取、栄養と食生活と栄養について学ぶ。
2. 健康回復のために対象の病態に応じた病態栄養学について学び、食事療法における指導的関わりに生かせるようにする。

<授業内容>

- 第1回 栄養食事療法とは、栄養食事療法の実際 2H
- 第2回 症状を持つ患者の栄養食事療法、がん患者の栄養食事療法 2H
- 第3回 循環器疾患患者の栄養食事療法 2H
- 第4回 血液疾患患者の栄養食事療法、精神・神経疾患患者の栄養食事療法 2H
- 第5回 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 2H
- 第6回 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法 2H
- 第7回 高齢者の栄養食事療法 2H
- 第8回・第9回 消化器疾患患者の栄養食事療法 4H
- 第10回・第11回 術前・術後の栄養管理 4H
- 第12回 妊産婦・更年期、小児の栄養食事療法 2H
- 第13回 経腸栄養剤、補助食品について 2H
- 第14回・15回 調理実習 4H

<授業方法>

講義はすべて教室でパワーポイントを使用して行います。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
評価は前期終講試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

足立香代子他「系統看護学講座 別巻 栄養食事療法」

<自己学習のポイント及び参考図書>

<履修上の注意点>

<学生に向けてのメッセージ>

科目名	リハビリテーション学	必修/選択の別	必修
授業担当者	医師、看護師、セラピスト	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 全人的復権としてのリハビリテーションの理念とその方法論について学ぶ。
2. リハビリテーション看護の基本的知識と技術の基礎を学ぶ。

<授業内容>

リハビリテーション医学 6H 講師:医師

第1回～第3回 全人的復権としてのリハビリテーション、リハビリテーション総論と疾患障害とQOL ～旅は最高のリハビリテーション～

リハビリテーション看護 12H 講師:看護師

第4回・第5回 リハビリテーション看護について

第6回・第7回 ADL、廃用症候群について

第8回・第9回 リハビリテーション看護を必要とする人の看護援助について

理学療法 4H 講師:理学療法士

第10回・11回 理学療法の目的・方法、理学療法の実際

作業療法 4H 講師:理学療法士

第12回・第13回 作業療法の目的・方法、作業療法とは(activityについて)、作業療法でめざすこと

言語療法 4H 講師:理学療法士

第14回・第15回 言語療法の実際、高次機能障害・失語症・構音障害、嚥下障害とSTによる介助

<授業方法>

講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめます。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。

評価は試験において合計100点の筆記試験を実施し評価する。

<必携図書>

中西純子他「成人看護学 リハビリテーション看護論 第2版」ヌーベルヒロカワ

<自己学習のポイント及び参考図書>

医学映像セレクトの視聴

「看護 看護のための病態生理とアセスメント 高次脳機能障害(vol.13)」

<履修上の注意点>

講師が複数で担当するため講義資料はファイリングし講師と授業内容がわかるようにしておく。

<学生に向けてのメッセージ>

楽しくリハビリテーションを学びましょう。

科目名	保健医療論 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	今井 拓、内藤 恵一、小泉 京子	評価方法	総合評価
履修年次	1年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

- 1.医学・医療の発展の歴史と課題について学ぶ。
- 2.我が国における医療供給体制や医療関係者の現状について学ぶ。
- 3.医療技術の発展とともに生じている医療倫理の諸問題を学ぶ。
- 4.人間・健康そして患者の要求について社会と結び付けて考えることができる。

<授業内容>

- 第1回・第2回 医学医療のあゆみ 現代医療の倫理的問題 4H 講師:内藤恵一
 第3回 我が国の医療供給体制の現状 2H 講師:今井拓
 第4回 医療関係者の現況と役割 2H 講師:今井拓
 第5回 医療保障の現状と課題 2H 講師:今井拓
 第6回 患者の権利 2H 講師:小泉京子
 第7回・第8回 B型肝炎訴訟原告団当事者の話 3H

<授業方法>

- 第1回・第2回の講義ではDVDを鑑賞及び講義形式で進める。
 第3回～第6回の講義は講師の配布資料とパワーポイント、教科書を用いて講義形式で進める。
 第7回・第8回はB型肝炎訴訟原告団及び弁護団による当事者のお話とグループディスカッションによる。場所は講堂。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席、演習の取り組みへの態度、提出物、発表会参加への態度をもって評価する。

<必携図書>

小坂樹徳他「新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論」メヂカルフレンド社

<自己学習のポイント及び参考図書>

新聞・雑誌、ニュース、報道番組などから医療に関する事柄について、日常的に興味・関心を寄せて情報を得る。
 参考図書 宮坂道夫「ハンセン病重監房の記録」集英社新書
 ドリアン助川「あん」ポプラ文庫

<履修上の注意点>

第6回目は現代医療の問題と看護者の役割を学ぶため、B型肝炎訴訟団の原告にお出でいただき、患者講義を行います。当事者が自身の経験を語ることは勇気の要ることです。誠実な態度で臨んで下さい。

<学生に向けてのメッセージ>

医療や健康に関する知識は、看護を学んでいく上で基礎になるものです。この科目では知識として覚えておくことが必要な内容と倫理問題や現代医療の問題点など疑問を持ちながら考えることが必要な内容があります。保健医療の問題に興味関心を寄せて学習することは、今後、「患者の立場に立つ看護」を学んでいく上で役立つに違いありません。

科目名	保健医療論Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	遠藤 隆、木内 正治、小泉 京子	評価方法	総合評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

- 1.健康格差と貧困格差の関連性を知り社会が健康に及ぼす影響と看護の役割を考えることができる。
- 2.国、県の医療政策の現状を知り、進むべき方向性を考えることができる。
- 3.臨床倫理の検討方法を知り、道徳的感性を高めることができる。

<授業内容>

- 第1回・第2回 日本の医療政策と現状の課題 4H 講師:木内正治
 第3回・第4回 医療倫理を実践的に学ぶ 4H 講師:小泉京子
 第5回・第6回 平和・憲法と健康権、貧困格差と医療・看護に求められる課題 4H 講師:遠藤隆
 第7回・第8回 民医連医療の歴史と活動、安心して住み続けられるまちづくり 3H

<授業方法>

授業は講義形式で進めるが、第2回～第3回はグループディスカッションや演習、DVD鑑賞を含む。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席、演習の取り組みへの態度、提出物、発表会参加への態度をもって評価する。

<必携図書>

小坂樹徳他「新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論」メヂカルフレンド社

<自己学習のポイント及び参考図書>

新聞・雑誌、ニュース、報道番組などから保健医療に関する事柄について、日常的に興味・関心を寄せて情報を得る。

<履修上の注意点>

この科目と関連する科目として、「地域看護学」「社会福祉」「公衆衛生学」などがあります。知識を統合し、現代社会と保健医療の課題について考察を深めることを期待します。

<学生に向けてのメッセージ>

医療従事者に就く上で、改めて患者観を看護観を見つめ直せる機会にさせていただきたいと思います。

科目名	公衆衛生学	必修/選択の別	必修
授業担当者	秋山 有佳	評価方法	筆記試験
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	2単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 生活環境や文化、教育、生活習慣などが人々の健康に及ぼす影響について理解することができる。
2. 予防の視点をふまえた看護活動を行う上で必要な知識をみにつけることができる。

<授業内容>

- 第1回・第2回 公衆衛生の歴史、公衆衛生の理念・概念、現在の公衆衛生システムと政策 4H
 第3回 公衆衛生のものさし 2H
 第4回・第5回 公衆衛生活動のプロセス、子どもと保健 4H
 第6回・第7回 高齢者、成人の健康づくり、歯科保健 4H
 第8回・第9回 精神、難病、健康危機管理と災害 4H
 第10回・第11回 感染症、学校保健 4H
 第12回・第13回 産業保健、環境保健① 4H
 第14回・第15回 環境保健②、期末試験対策 4H

<授業方法>

基本的に講師作成のパワーポイントを用いて講義形式で進める。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
 評価は前期終講試験において、合計100点の筆記試験を実施し評価する。60点以上を合格とする。

<必携図書>

ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生. MCメディカ出版

<自己学習のポイント及び参考図書>

講義で紹介する細かい数値等は、「国民衛生の動向」、「図説 国民衛生の動向」を用いることが多いです。また、この図書には、制度等についても詳細に記載されており、予習復習に役立つと思われるので、一冊持っておいて理解を深められるとよいです。

<履修上の注意点>

毎回配布プリントが多いです。終講試験では、配布プリント、授業内で話した内容から出題しますのでプリントをなくさないよう、厚めのファイルを用意しておいてください。

<学生に向けてのメッセージ>

公衆衛生学は、皆さんが目指している看護師という職をイメージしたとき、なかなか関係がない分野なのではないかと思うと思います。しかし、公衆衛生学は病気になる前にアプローチする、予防に重点をおいた分野であり、主に病院ではなく、私たちが普段生活している地域において、母子から高齢者まで、人の一生を様々な形で支援するのに役立つ分野でもあります。

授業を通し、予防的観点も持った広い視野の看護師になってほしいと思います。半期間よろしくお願いたします。

科目名	社会福祉	必修/選択の別	必修
授業担当者	河野 朝呼	評価方法	レポート評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	2単位	時間数	45時間

<到達目標>

1. 人間の生きる権利と、それを保障する社会福祉制度の実態を調査し、日本国憲法に照らして本来あるべき社会保障制度のあり方について考察する。
2. 健康を社会発展の歴史から捉える。
3. 患者の要求を権利として認め、患者とともに健康回復の取り組みを進め、安心して健康回復ができる保障を実現するための看護の役割を考える。
4. 患者の社会福祉に対する要求を捉え、その本質をつかみ健康や障害の状況に応じた社会資源の活用の実態から他職種と連携し、解決手段が見出せる基本的能力を養う。

<授業内容>

オリエンテーション 講師:河野朝呼

第1回・第2回 社会福祉の歴史・概念 4H 講師:奥田仁美

第3回・第4回 医療と社会福祉 4H 講師:奥田仁美

第5回・第6回 社会福祉の動向と課題 4H 講師:奥田仁美

グループ分け、事例紹介、演習計画 担当:河野朝呼

第7回・第8回 担当MSWからとの打ち合わせ 演習 4H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第9回～第12回 演習、フィールドワーク 8H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第13回 特別講義 2H 講師:未定 担当:河野朝呼

第14回 演習 2H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第15回・第16回 グループディスカッション 演習 4H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第17回・第18回 グループディスカッション 発表準備 演習 3H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第19回～第22回 社会福祉演習発表会 演習 8H 講師:グループ担当MSW、担当教員

第23回 まとめ講義 2H 講師:奥田仁美

<授業方法>

第1回～第6回、第23回は講師作成のパワーポイントおよび教科書を用いて講義形式ですすめる。

第7回～第18回は担当MSW・担当教員のサポートを受けフィールドワークとグループディスカッションの演習形式で進める。

第19回～第22回は各グループの発表形式で進める。

<評価方法の詳細>

授業時間2/3以上の出席時間をもってレポート評価の資格が得られる。

評価はレポートにおいて評価する。

<必携図書>

全日本民医連社保委員会編「明日をひらく社会保障～保健・医療の改善をめざして～」保健医療研究所

「日本国憲法」小学館

「あれ？おかしい。」全日本民医連

<自己学習のポイント及び参考図書>

児島美都子「専門基礎講座 よくわかる社会福祉」金原出版株式会社

塚田薫「日本国憲法を口語訳してみたら」幻冬舎

「ここまで進んだ！格差と貧困」新日本出版社

<履修上の注意点>

演習であるため、主体的、積極的に臨むことが期待されます。

<学生に向けてのメッセージ>

本校独自のカリキュラムであり、実際の事例を紹介していただき、臨床現場のMSWと共にすすめる演習です。

社会的困難を抱えた事例に向き合い、事例の実態から他職種と連携し、解決手段が見出せる基本的能力を養うことをめざしています。